

主日の福音 2024/3/28(No.1287)

聖木曜日 (ヨハネ 13:1-15)

父がすべてを御自分の手にゆだねられた (2)



「イエスは、父がすべてを御自分の手にゆだねられたこと、また、御自分が神のもとから来て、神のもとに帰ろうとしていることを悟り、食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。」 (13・3-4) 受難の主日に予告した、御父とイエスの間では失われる物は何も無いことへの答えです。

御父が、すべてを御子イエスの手に委ねました。御父が、造られたものすべて、人類のすべてを委ねられたので、命を奪おうとする人々が何をしようと、何も奪われることはないのです。その、すべてを委ねられたイエスは、最後の晩餐の席で、今度は弟子たちにすべてを委ねようとするのです。

聖木曜日は、司祭職の制定と、聖体の秘跡を定められたことを記念する日です。司祭職の務めは、イエスが弟子たちの足を洗う場面に象徴的に示されています。それは、人の上に立つことではなく、互いに仕え合うということです。「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。」 (13・15)

司祭はミサをささげます。イエス様が命のパンとなって、人々に配られ、人々が養われる。その奉仕をするのが司祭です。決して、「配ってやっている」という役割ではありません。ゆるしの秘跡では罪をゆるします。「あなたの罪はゆるされましたよ」と、イエスの働きを届けるのが務めです。その徹底した奉仕の姿が、弟子の足を洗う姿です。

今日の典礼に、私たちは一人ひとり、父なる神から呼ばれて御子イエスに委ねられました。喜んできた人も、そうでない人も、呼び集められて、すべてを委ねられたのです。どなたか、洗足式にお願いされた人がいるでしょう。そのほかにも、洗足式に加わりたい方はこの説教のあとどうぞ前に来てください。

「わたしの足など、決して洗わないでください」 (13・8) とペトロは言ったのです。決して洗わないでくださいと思う人でもけっこうです。イエスのお手本に倣って、司祭があなたにお仕えます。

今日の典礼は、イエスが、儀式の形を取って弟子たちにすべてを与え尽くす日です。明日の受難の典礼は、イエスが全身を使って弟子たちにすべてを与え尽くす日です。いずれにしても、御子イエスは御父からすべてを委ねられ、そのすべてを弟子たちに託そうとします。

敵が、外からどんな攻撃をしても、何も奪われることはありません。何も失う物はありません。ですから私たちも、奉仕の模範を示してください。イエスにすべてを委ねましょう。イエスにすべてを委ねるなら、私たちは何も奪われる心配が無いのですから。

聖金曜日(ヨハネ 18:1-19:42)